令和6年度

徳島市入田中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○朝の読書や委員会活動による読書活動の充実
○個性や適性を生かした，きめ細やかな指導による思考力・表現力を深める授業
○家庭学習の手引きを用い，保護者との連携による家庭学習の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
2年主任・担任　高橋　綾	校長：遠藤　明子　教頭：坂東　壽枝　教務主任：瀧本　倫明 3年主任・担任：市村　加奈　1年主任：髙尾　みちよ

校長

遠藤　明子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取り組みの状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

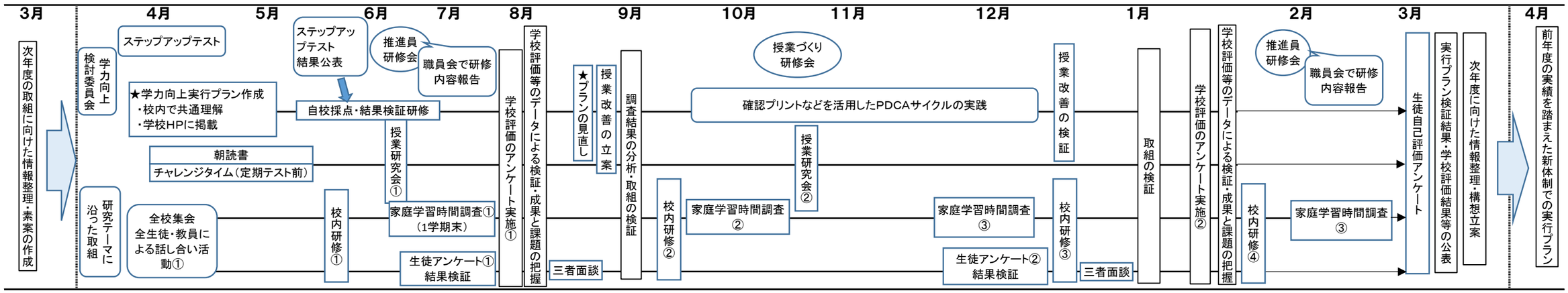
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○意欲的に学習に取り組むことができ，音読や発表などにも積極的な生徒が多い。 ○基礎的な内容はほぼ理解できており，説明的な文章などの読み取り問題の正答率も高い。 ●長い文章を正確に読み取ったり，情報量が多い問題を身につけた知識と関連付けたりすることに課題がある。	・基礎的・基本的な内容の習得に意欲的に取り組むことができる。 ・読書活動により語彙数が増え，正しい言葉で文章を読んだり書いたりすることができる。	・月1回の図書委員会の活動(ブックトーク等)を通し，読書活動の充実を図る。 ・テスト前に補充学習（ﾁｬﾚﾝｼﾞﾀｲﾑ）を行うことで，基礎的内容の定着を図る。 ・相互参観授業を通して，指導力の向上を図る。 ・生徒が興味関心をもって学習に取り組むことができるよう発問や資料の提示など教材研究し，ICTを有効活用する。 ・小テストやミライシードなどを活用し，分かる喜びを実感させる。	・テスト前の補充学習（チャレンジタイム）ではより多くの生徒が参加できるように，課題を準備する。	・学習図書委員の月1回のブックトーク，週2回の図書室開放，毎朝の読書の時間を設けることで，読書の習慣が身についている。 ・テスト前の補充学習（チャレンジタイム）などによる基礎的・基本的な知識・技能が定着し，定期テストの5教科平均が70点以上が67%達成できた。 ・ICTを有効に活用できた。	・生徒のニーズに合った指導・支援を教職員間で共通理解を図り、基礎的・基本的な知識・技能の定着をさらに強化していきたい。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○積極的に自分の意見や考えを発表することができる。 ○話し合いなどの活動では友達の意見を聞き，素直に自分にいかそうとすることができる。 ●自分の考えを言葉で論理的に表現することに課題がある。 ●資料やグラフを読み取ったり，比較したりして条件に即して記述することに課題がある。	・目的に応じて，情報を整理しながらまとめ，論理的に伝えることができる。 ・各教科で学習したことを，実生活でも役立てようとする姿を見ることができる。 ・人の意見を取り入れ自分の考えを深めることができる。	・各教科において，文章を書く機会を増やし，条件にあった表現力を身につけさせる。 ・学習形態（グループ，ペア等）を工夫し，論理的に考えるような，話し合いや発表の場面を設ける。 ・授業の中に話し合いや教え合いの場面を設け，必要に応じてタブレットを使いながら，自分の考えを他者に伝えたり，他者の意見を聞いたりする機会をつくる。 ・相互参観授業を通して，指導力の向上を図る。		・各教科で学習形態を工夫し，対話する機会を設けた。 ・タブレットを利用し，文章で自分の考えを表現したり，意見交換や発表をしたりした。	・定期テストで思考力・表現力を培うような問題を作成し，生徒により力をつけさせるようにする。 ・生徒同士での対話の機会を設け，自分の意見を伝えたり，他人の意見を聞きながら考えたりする時間をとる。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○疑問に思ったことに対し，積極的に発言や質問をすることができる。 ○学校のきまりを守り，真面目な態度で，授業に取り組むことができる。 ●家庭学習の習慣や，学習内容の定着に課題がある生徒がいる。	・生徒一人一人が課題や進路に向けて，目的意識を持ち，計画的で自主的な学習を進めていくことができる。 ・自分の学習方法を確立し，家庭学習に積極的に取り組めるようにする。	・学習委員会の活動により，家庭学習の充実を図る。 ・補充学習（ﾁｬﾚﾝｼﾞﾀｲﾑ）を行い，学習を支援する。 ・家庭学習の手引きを活用しながら，保護者との連携を図り，計画的な家庭学習につなげる。	・家庭学習時間調査の結果を生徒にフィードバックする。	・家庭学習時間の増加，内容の改善に向けて，各教科で課題を細分化したり，家庭学習の意義を伝えるなどし，生徒の意識改革を行えるように工夫する。	

令和6年度　学力向上ロードマップ